

<花菖蒲の管理について>

●置き場所：十分に日の当たるところを選びます。半日以上日陰になる所では生育不良になります。（朝に陽が当たる方が良い）

●夏の管理：（6月～8月）

① 6月の花が咲き終わる頃に株分けをします。（2枚目に記載）

（4号鉢に植えます。植え替える土は、肥料気のない土。）

② 水やり：乾きやすい季節なので鉢を受け皿に5cm位水に漬けておくと水やりの手間も省けて便利です。

（※受け皿の水の温度が上がりすぎないようにする。）

③ 肥料：普通は肥料をやらない。

（9月中旬に生育不良のものは薄い液体肥料をやる。）

④ 病虫害：ハダニ

葉が乾燥すると発生するので、時々霧吹きで葉に水をやる。また、ケルセンを1000倍に薄めて使用するのも良い。

白絹病（しらきぬ）

高温多湿の時期に発生株元に日が当たるように心かける。また病気を予防するという事でマンネブダイセンを400倍～600倍に薄めて使用するのも良い。

アザミウマ

葉や花に寄生し汁を吸い害をあたえます。特に夏に被害が多く目立ちます。被害が進むと花が咲かなくなるので早めに薬剤（オルトラン）で駆除してください。

●秋の管理：（9月～10月）新しい根から養分を吸収するので。

① 大きい鉢へ植え替える。

涼しさとともに新芽、新葉の成長が盛んになってくるので、9月の上旬から中旬にかけて7号鉢に植え替えます。

※ 用意するもの（7号鉢）（鉢底ネット）（用土）株分け時と同じ土。

※ 植え方：ネットで鉢穴をふさぎ、土を3cm位入れ鉢から抜いた苗をそのまま大きい鉢の真ん中に置き、土を周りに入れる。

②水やり：植え替え後は、受け皿から出して普通の鉢で管理する。

（晴天の日は1日1回程度。）

③止め肥：秋の彼岸過ぎから晩秋までに2・3回肥料を施します。それ以降施しません。

（肥料は有機肥料（油かす・骨粉・魚粉）が良い。）

●冬の管理：（11月～2月）

①休眠期：葉が枯れても、苗は枯れていない。

（厳しい冬を乗り越えて、春へのエネルギーを十分に蓄積して開花の時を静かにまっている。）

②水やり：自然の雨で十分

（雨が少なく乾燥する場合は週に1回程度、水をあげます。）

●春の管理：（3月～5月）

①病虫害に注意：暖かくなると新芽が出てきます。その新芽をねらって害虫が発生します。

※ メイ虫（アヤメキバガ）

（3月下旬発生。新芽を食害する。殺虫剤のマラソン乳剤1000倍に薄めて散布しますと効果的です。）

※ 夜盗虫（ヨトウムシ）

（4月上旬に発生。新芽を食害する。こまめに見回り捕殺する。薬は効かない。）

注・そのためには鉢ごと水につけて虫がでてきたら捕殺する。

② 肥料：葉の色が薄かったら薄い窒素肥料。（液肥を施す。）

（※注意・肥料をやりすぎると花がつかないので注意する。）

〈やさしい花菖蒲の作り方〉

◆株分けとは（なぜ株分けをするのでしょうか？）

「株分け」とは、植物の根株を分けて繁殖させる方法です。「株分け」をしない株は、狭い鉢内に根が一杯になって根から養分や水分が取れなくなり年々衰弱し枯れてしまいます。そのため花菖蒲の場合花が終わる6月中旬から下旬に株の養生と増殖のために「株分け」を行います。

◆株分けの仕方

①用意するもの

※ 苗：丈夫な病気にかかっていないもの（葉が5枚以上のもの）

※ 用土：肥料気のない土

（例・・・赤玉土6対ピートモス4、マサ土5対ピートモス5など）

※ 鉢：4号鉢（ポットでも可）

※ ラベル：名前と色の記録

※ ハサミか小刀（株を分けるときに使用）

②株分けの仕方



①株分け、植えつけ前



②鉢の縁を軽くたたいて鉢から抜く



③根を傷つけないように土を落とす



④洗ってきれいに土を落とす



⑤洗った根



⑥株を2つに分けたところ



⑦1株ずつ分ける。花茎（中央棒状の株）は不要



⑧葉を切りつめたところ
5枚葉以上の株を選ぶ



⑨根をひろげておく。中央部に株をすえるように



⑩用土をつめる浅植えにする



⑪鉢の場合も同じ要領で植える



⑫ラベルをつける